

## 【みえの遺跡紹介】四日市市 中野山遺跡

中野山遺跡は四日市市北山町にある縄文時代から奈良時代にかけての集落跡です。縄文時代早期（約1万年前）の煙道付炉穴（えんどうつきろあな）が県内最多となる174基まとまって確認されたことが特に注目できます。

煙道付炉穴は、縄文時代草創期から早期にかけて、関東から西の太平洋側にのみ見られる遺構で、大小2つの穴とそれをつなぐトンネル（煙道）によってできています。大きい穴の方で火を焚き、小さい穴から出る熱風や煙を利用して木の実などの食料を乾燥させ、虫食いやカビの被害を防いで長持ちさせる調理施設とも考えられています。

中野山遺跡の発掘調査報告書は、こちらでご覧いただけます。

<https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/maibun/da-tosyo/maibunDetail?mgnum=1091454>

（活用支援課）

- 写真1枚目 遺跡遠景
- 2枚目 たくさん見つかった煙道付炉穴
- 3枚目 煙道付炉穴の調査作業（火を焚いていた部分の土は赤く焼けています）
- 4枚目 煙道付炉穴イメージ図



